事例50

主体的に学ぶ子をめざして

～個が生きる学習形態の工夫～

志賀町立土田小学校

1　事例の概要

本校では、研究主題を「主体的に学ぶ子をめざして」とし、この主題に迫るために個が生きる学習形態を工夫しながら、一人一人の児童にきめ細かな指導、支援を行っている。『①個が生きる算数的活動の工夫』『②個が生きる学び合いの場の工夫』『③個が生きるための指導と評価』という３つの仮説を立て、算数科を中心に仮説を検証した。

Ａ－１　研究全体構想図　　Ａ－２　主体的に学ぶ子の姿

2　実践内容　～個が生きる学習形態の工夫～

(1)　個が生きる算数的活動の工夫

基本的な学習過程を「ふり返る→つかむ→考える→高める→まとめる→ふり返る」とし、児童一人一人が自分の考えを持って学び合いに参加するために、自力解決時に操作ができる『そうさコーナー』を設けた。『そうさコーナー』では、具体物や半具体物を操作する活動を取り入れ、児童が主体的に算数的活動を選択できるようにしている。また、ヒントカードから解決方法を考える『ヒントコーナー』も設けている。

(2)　個が生きる学び合いの場の工夫

自力解決時に、自分なりの意見は持てても、一斉学び合いの場で、どんなふうに話したらいいか戸惑う児童の手だてとして、一斉学び合いの前にペアやグループで考えを話し合う場を設けた。本校では、この場をトークコーナーとネーミングし、発達段階に応じて次のような活動のねらいを設定した。

・発表練習をし、分かりやすく友だちに説明できるようにする。
・友だちと話し合うことで、自分の考えに自信を持つ。
・友だちの考えとの類似点や相違点を見つける。
・友だちの考えと比べ、自分の考えを修正する。

(3)　個が生きるための指導と評価

児童の実態を把握するための手だてとして

① レディネステストを行い、既習事項のつまずきを吟味する。
② 指導案の展開に、個に応じた支援を３～４つの支援枠で明記する。
③ 展開に評価場面を明記し、さらに児童の変容を把握するため２回の評価場面を設ける。
④ 板書計画を作成し、教師の発問と児童の予想されるつぶやきを記入する。
⑤ １時間ごとの座席指導評価表と単元全体の単元指導評価表を作成し、評価する。

(4)　学習を支える環境の工夫（習熟の時間確保）

朝の自習時間をパワーアップタイムと位置づけ、算数の基礎・基本習熟の時間としている。昨年度までの計算プリントに加え、今年度は『暗算タイム』『そうさタイム』を設け、算数を活用したり、量感をつける時間としている。

Ｂ－１　学び合いの場の系統表　　Ｂ－２　トークコーナー　　Ｂ－３　評価表の活用

Ｂ－４　そうさタイム年間計画　　Ｂ－５　パワーアップタイムの様子

３　指導の実際　６年算数科　単元　体積～かさを調べよう～

(1) 個が生きる指導のために

基礎・基本の定着をめざすトライコース、発展的な学習も取り入れるチャレンジコースのどちらの習熟度別コースにおいても、自力解決をめざすヒントコーナーやそうさコーナー、ペアあるいは小グループで学び合うトークコーナー､そして一斉学び合いなど学習形態を工夫することで、自ら進んで関わり考える力を育てる。

(2) 本時の評価規準と支援

・公式のよさに気づき（進んで）活用しようとしている。　〔関心・意欲・態度〕
・縦・横・高さに着目して２００㎤の形を考えている。（考え、根拠を明確にして説明している。）　＊（　）はＡと判断する視点　〔数学的な考え方〕

〈トライコース〉
・積が２００になる３口のかけ算を立式させながら縦・横・高さに気づくようにする。
・２００㎤の具体物を提示し意欲づけするとともに、児童自ら選んで使うことができるヒントカードを用意して、解決の見通しが持てるようにする。

〈チャレンジコース〉
・具体物や方眼のシートを用意し、児童が操作しながら考えることができるようにする。
・入れ物の展開図をつくり、そのことを通して底面と高さに着目するようにする。

Ｃ－１　指導案　　Ｃ－２　板書計画

４　成果と課題

(1)　成果

・学力調査やレディネステストで児童のつまずきを把握し、児童の学習の反応を予測して、自力解決のためのコーナーを用意することができた。
・算数的活動を工夫することで、児童一人一人が課題に向かって主体的に活動する姿が見られるようになった。
・一斉学び合い前に、子ども同士のペアやグループでの学び合いを取り入れたことで、主体的に自分の考えを発表したり修正したりする姿が見られるようになった。

(2)　課題

・児童の意欲をさらに引き出すような課題提示の仕方を工夫する。
・グループ学習での学び合いで児童の変容を十分に把握し、一斉学び合いで生かせる手だてをさらに工夫する。
・児童が、主体的に次時の学習課題を見出せるような学習のふり返りを工夫する。
・事前・学習中・事後を通してより効率的な評価方法の開発をする。
・今後も単元計画の中に発展的内容を取り入れるとともに、算数を生活に活用しようとする態度を育てていく。

Ｄ－１　児童の変容

５　その他

各学年の既習事項を把握し、どの学年で算数的表現方法を身につけるかを系統表でまとめた。

Ｅ－１領域別算数系統表